

15. 令和7年度 山梨県てんかん地域診療連携体制整備事業報告書

山梨大学医学部附属病院 てんかんセンター 加賀 佳美

令和7年度の活動報告

令和7年度(2025年度)における山梨県てんかん地域診療連携体制整備事業の活動をまとめた。山梨大学医学部附属病院てんかんセンターを中心に、てんかん患者の診療支援、専門医育成、市民啓発、地域連携を推進した。

1. 研修医、専門医への教育活動

山梨大学医学部附属病院 てんかんカンファレンスの開催

以下のとおり、山梨大学にてWebおよび現地でのハイブリッド形式にてんかんカンファレンスを開催した。関連病院などからも多数の参加者がいた。日本てんかん学会認定のてんかん専門医研修認定施設として、今後も、専門医育成を目的とした研修も兼ねた当カンファレンスを定期的開催していく予定である。

- 1月 LEV、PERで皮疹を認めたてんかんの1例
- 2月 治療に難渋している非定型欠伸発作を呈する3歳女児の1例
- 3月 Angelman症候群とてんかん
- 4月 治療終結を計画した症例のまとめ
- 5月 生成AIを使い倒す
- 6月 てんかんの最新治療と診療連携のポイント
- 7月 てんかんのみかた 初級編
- 8月 精神保健福祉手帳の書き方
- 9月 てんかん新分類2025襲来
- 10月 小児てんかん患者におけるLEV怠薬とbreakthrough seizureの検討
- 11月 小児リハを行う当院におけるてんかん診療の現状と課題
- 12月 この脳波、どう考えますか?

～日本臨床衛生検査技師会・生理検査フォトサーベイより～

今後も月1回のカンファレンスを行い、山梨県内のてんかん専門医の育成とてんかん関連施設との研修を行っていく予定である。

2. 一般市民への啓発活動

1) 県民ひろばモニター放映: 2025年10月

山梨県防災新館1階県民ひろばモニターにて啓発スライド放映した。



<実際の様子>



2) ライトアップイベント: 2025年10月1日~8日
武田信玄公像、県庁議事堂などのライトアップを実施した。
(紫色: てんかん支援シンボルカラー)。
地元紙の山梨日日新聞(2025年10月3日)に記事も掲載された。



3) JR甲府駅前啓発活動: 2025年10月6日
当院医師・SW・事務職員・県職員・波の会・学生ボランティアが参加した。パープルデーのTシャツを着用し、ティッシュを配布した。地元紙の山梨日日新聞
山梨日日新聞(2025年10月28日)に記事が掲載された。

4) 山梨県民の日ブース出展: 2025年11月16日
小瀬スポーツ公園において、普及啓発ポスターを掲示した。また、ティッシュを配布した。



5) 山梨てんかん市民セミナー: 2026年2月14日(開催予定)
「てんかんの併存症を知ろう」のテーマで、山梨大学小児科の相原悠先生、山梨大学精神科の安田和幸先生、甲府脳神経外科病院脳神経内科の小林理恵子先生をお招きして、小児から高齢者までの幅広い年代における併存症の理解を深める予定である。

3. 山梨県てんかん地域連携協議会の開催 (2026年2月14日、開催予定)
てんかん拠点病院より加賀センター長、佐野副センター長、埴原脳神経外科医師、志村支援コーディネーター、医療関係者として笛吹脳神経外科 上野院長、甲府脳神経外科病院 小林脳神経内科部長、当事者(家族)として、てんかん協会山梨支部代表 葛西氏、県関係機関、事務局らが参加して対面で行う予定としている。



以下は、当日の会議の議題である。

1) てんかん支援拠点病院の活動実績の報告

山梨大学医学部附属病院てんかんセンター(支援拠点病院)より、令和7年度の実績について詳細な報告を行う。報告内容には、治療件数・患者数、てんかん診療支援コーディネーターの対応実績、一般市民向け啓発活動(ライトアップ、駅前キャンペーン、市民セミナー等)、および月1回のでんかんカンファレンス開催状況などが含まれ、質疑応答を通じて参加者と意見交換をする。

2) 昨年の議題を踏まえたフォローアップ報告

昨年の議題を踏まえて令和7年度に行った事業として、山梨大学医学部附属病院てんかんセンターの外来患者を対象に日常生活、相談支援に関する調査を実施した。調査結果について山梨大学医学部附属病院 志村支援コーディネーターから説明を行う。参加者による意見交換も通じて、支援ニーズの集計と分析を行い、課題解決策の提案(例: 就労支援強化、発達障害併存者への多職種連携)につなげる予定としている。

また、昨年度の会議で話題となった、入浴中の発作に伴う子どもの死亡事故が続けておきた事に対して、今後事故防止に向けての取り組みについて、県から説明がある予定である。

3) 来年度以降の事業について

発達障害併存のてんかん患者への対応の現状と対応について、出席者から発言をいただき、意見交換を行う予定である。各委員から意見を集約しつつ、発達障害併存者への支援の観点も踏まえた、来年度以降の活動の方向性の共有を行う予定である。